

教会の自己診断スケール【基礎編】

連盟全国支援・地域協働プロジェクト

バプテスト北九州地方連合

宣教支援センターニュース 17号



発行責任者：山田雄次
発行所：〒805-0015
北九州市八幡東区荒生田2-1-40
Tel&Fax：(093)651-6669
東八幡キリスト教会内
連合宣教支援センター事務局
発行日：2016年12月21日

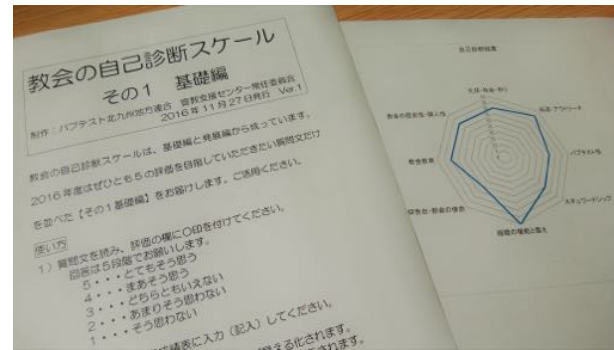
常任委員会では昨年度から、自分たちの教会の強みと弱みを自己分析するためのスケールの開発作業に取り組んでいます。

2016年1月の運営委員会では、ご一緒に質問文を考えていただくための作業会を、ワールドカフェ形式で行いました。その時の成果物として4月のバプテスト大会に合わせて、教会内の対話を促すための「質問シート」をお配りしました。

その後、教会の強みと弱みを自己診断するツールが欲しいという声が複数寄せられました。常任委員会で検討を重ねた結果、バプテスト教会として良い評価を目指していただきたいと思う項目をまとめた「基礎編」と、多様な教会理解を促す「応用編」の二本立てで、教会の自己診断スケールを仕上げることにいたしました。

今回お配りする基礎編は、回答の負担を減らすためA3用紙1枚にまとめました。質問に5段階評価で回答していただき、別途お配りするExcelファイルに項目ごとの合計点を入力しますと、教会の強みと弱みがレーダーチャートで表示されるようにいたしました（手書きのレーダーチャート作成も可）。

新しいスケールは連合事務局から諸教会にお送りいたします。回答に要する時間はわずか20分程度です。次年度の計画立案、新旧執事会などの機会に用いていただければと思います。なお、応用編は来年度の配布を目指して作業を進めます。



教会バザーでつながる顔と顔

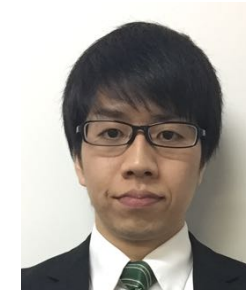
教会おじゃまします 直方教会

教会おじゃまします 豊前教会

教会の自己診断スケール【基礎編】

写真：ジョイ・ハンドベルクワイヤ

(11/24 豊前教会)



連合を見る視点 下関教会牧師 泉 選也(下関)

今年の4月より下関バプテスト教会に赴任しました。先の10月23日に無事に就任式を執り行うことができ、連合諸教会の皆様からも祝福と励ましを頂きましたこと、誌面を借りて感謝申し上げます。赴任してからの歩みを簡単に振り返ると、毎週の祈祷会や礼拝の準備、幼稚園の関わりなど、押し寄せる出来事に圧倒されながら、落ち着いて思考する余裕もなく、何とか乗り越えてきたとしか言いようがありません。この巻頭言もその一つです、なんて言ったら怒られてしまうでしょうか。でもおかげさまで、この執筆も含めて、半年の間に連合での交わりも多くあり、宣教支援センター運営委員会や「教会おじゃまします」など参加させていただいています。

また先日の牧師会で読み合わせた資料に興味深いものがありました。カール・ヒルティの文章です。そこでヒルティは、聖職者とは「慰めの力、効果ある祈り、病気の治療、罪のゆるし、預言の能力」といった宗教的能力を備えているものだと言っています。多少の物議を醸しそうな概念ですが、おそらくこれはヒルティから見た当時の聖職者制度やその形式的な在り方に対する批判が込められていたのではないかと想像します。しかし私が注目したのは、その直前に書かれた次のような前置きです。「聖職にある人たちを評価する場合、われわれ平信徒にとって主として標準となるのは…」つまりそれは「信徒」から見た聖職者の基準であるのです。信徒が聖職者を評価する基準は、そういった能力があるかどうか。信徒が聖職者に何を求めているのかとも言い換えられるでしょう。ヒルティの聖職者観は信徒の視点に立ったものだと言えるのです。内容の是非については吟味・検証されるべきですが、ここから示唆されるのは、私たちの持つ〇〇観とは、どこから見たものなのか、どこに立って形成されたものなのかということです。

協力体である地方連合もまたそうではないでしょうか。私たちは教会から連合を見る。最初からドーンと連合という枠組みが存在していたのではなく、各個教会がまずある。当初の各個教会の願いとは何だったのか。あるいは今の各個教会の思いとは何なのか。初期バプテストの地方連合も各個教会の主体性から生まれたと言うけれど、だからこそ、そこから発展して、必要があれば時代的な連合の原理やテーゼを乗り越えて変化していくこともあり得るかもしれない。宣教支援センターの試みもその一つではないか。そのように期待しながらこれから共に模索していきたいと思っています。

編集後記

11月16日(水)連盟定期総会1日目の夜、全国支援・地域協働プロジェクトの報告をさせていただきました。まず、山田雄次運営委員長が全国の諸教会・伝道所に向けて、日頃のお祈りとお支えに対する感謝の言葉が述べました。続いて齊藤主事がスライドを見せながら、教会おじゃましますプロジェクトの紹介、第1回連合まつりの報告、そして教会元気プランの進捗報告を行いました。わずか5分間でしたが、これまで連合諸教会が培ってきた教会間協力の業が見事に花開いている様子を、全国の皆様方にご報告することができ、うれしい時間となりました。



次回予告

巻頭言：石橋誠一牧師（東八幡）
おじゃまします報告：南小倉教会

2017年1月の予定

- 1月 1日(日)連合新年礼拝(シオン山)15時
- 8日(日)教会形成協議会(姪浜)～9日(月)
- 12日(木)センター常任委員会(東八幡)17時
- 19日(木)教会おじゃまします
～小野田教会14時半
- 20日(金)連合音楽委員会主催
菊池るみ子コンサート(シオン山)19時
- 21日(土)連合壮年会例会(東八幡)10時
大分地区教会音楽研修会(大分)
- 28日(土)連合教会教育委員会主催
信徒研修会(シオン山)10時半

宣教支援センターHP&Facebook

宣教支援センターのHP & Facebookが出来ました。以下のURLからアクセス可能です。是非、一度ご覧ください。

ニュースレターのバックナンバーを閲覧するにはパスワードが必要です。

HP：<http://bapkitaq.jimdo.com>

パスワード：kitaq2015

バプテスト北九州地方連合の諸教会のことを紹介する際に、忘れることのできない特徴の一つ。それは教会バザーが盛んなことです。日ごろお世話になっている地域の皆様方はもちろんのこと、諸教会の教会員とご家族の皆様方が、お客様としていらしています。お互いのバザーを訪問し合い、買い物や食事を通して交流を深めているのです。この秋に各教会で行われたバザーの写真を集めてみました。



教会バザーでつながる顔と顔

第10回

直方教会を訪問しました

10月27日(木)は直方教会におじゃましました。青空に誘われるかのように来会者が与えられて、15教会から56名の参加がありました。

原口悦子牧師はマタイ5:13~18からみ言を取り次いでくださいました。どんなに良い塩も壺の中に収めているだけでは役に立ちません。不十分な器に向かって、あなた方は地の塩・世の光であると語られる主に信頼すること。キリストの光を人びとの前に明らかにすることの大切さを教えられました。



この日は原口牧師を含めて7名の教会員の方がたが私たちを迎えてくださいました。礼拝後の分かち合いでは7つの分団に直方教会の方が1名ずつ入って、参加者からの質問に答えてくださいました。

10月30日(日)に高校生のバプテストマ式が予定されていたことから、講壇下のバプテストリーも特別に見せていただくことができました。ありがとうございました。



伝道委員会と宣教支援センターの共同企画
教会おじゃまします

第11回

豊前教会を訪問しました

11月24日(木)は豊前教会におじゃましました。10教会50名の参加があり、会堂の長椅子はほぼ満席になりました。礼拝の初めにジョイ・ハンドベルクワイヤによる特別賛美がありました。

本山大輔牧師はエフェソ6:21~24からみ言を取り次いでくださいました。パウロがティキコを遣わしたように、宣教支援センターの集会には諸教会から遣わされた人びとが集められています。そこには非の打ちどころのない人が集められているのではなく、十字架の赦しによって生かされている多彩な人が集められています。ここに互いに訪問し合い語り合うことの意味があることを学びました。



豊前教会のハンドベルは、鍛冶田みどり姉によって始められたと伺いました。15年間の無牧師期間を経て、鍛冶田治牧師が蒔いた種が、今の豊前教会の伝道を支えていることを知り、世代を超えたキリスト教会の業を見せられた思いがいたしました。ありがとうございました。